議　　題

交通・防犯関係部課長会議

１　地域における防犯活動の活性化について（名古屋市提出）

【要旨】

本市では、地域で防犯活動を積極的に行っていく人材を育成することを目的として、平成 26 年度から「防犯リーダー養成講座」を実施しています。しかしながら、講座を修了された方が、実際に地域で十分に活躍できていないのが現状です。

地域の防犯活動を活性化させるための地域への働きかけについて、各市で取り組まれている方策がございましたら、ご教示願います。

２　多発する特殊詐欺犯罪への対応について（半田市提出）

【要旨】

近年、多発している特殊詐欺ですが、半田署管内におきましても、昨年 39 件、約１億７千万円もの被害がありました。

また、昨年から市職員等を装った還付金詐欺についても多発しており、警察だけでなく、金融機関などとの連携や協力も重要となってきています。

そこで、特殊詐欺に関係する各自治体の取組み内容や新たに実施するものをご教示願います。

【半田市の状況】

（１）これまでの取組み

・半田警察や金融機関と連携したＡＴＭ前での啓発キャンペーン

・市役所での庁内放送、防災無線（１回実施したのみ）

・市報

（２）これからの取組み

・関係機関連携会議の開催（※条例制定の検討）

・着ぐるみを活用した啓発キャンペーン（特殊詐欺のタスキ作成）

３　歩行者保護モデルカー活動の実施について（豊田市提出）

【要旨】

愛知県は１４連続で交通事故死全国ワースト１位という厳しい状況が続いています。この状況から脱するため本市においては警察・商工会議所・民間企業と連携して「歩行者保護モデルカー活動」を推進中です。

しかし、ワースト１位返上の目標達成には、本市のみ同活動では困難であり、県内各市が啓発の方向性を統一させて推進していくことにより、より効果的なものになると考え、同活動を愛知県市長会に提案をさせていただいたところ、過日、開催された同市長会役員会において、この活動を市長会の取組みのひとつとして進めていくことが承認されました。

今後、各市の皆様にはこの活動の理解と取組みをお願いします。

（１）現在、推進中の啓発活動について

（２）今後、モデルカー活動への取組み予定について

●豊田市における「歩行者保護モデルカー活動」の取組

協力事業所等の車両に「歩行者保護モデルカー」のステッカーを貼り、事業所等のドライバーが３項目を実践した運転を行うことにより、安全運転のけん引役を担い、事故抑止を目指す。

◆速度遵守	速度が上がると、停止距離が伸びて事故回避が困難になるとともに、事故による致死率も上昇するため、ドライバーに対して「速度遵守」の徹底を図る必要がある。
◆ハイビームの活用	夕方から早朝にかけて交通死亡事故が多く発生しその大半が「ロービーム」による事故であるため、ドライバーに対して「ハイビームの活用」を促す必要がある。
◆歩行者優先	横断歩道は、歩行者優先であり、ドライバーに対して「横断歩道で歩行者等を見たら必ず止まる」歩行者保護意識の高揚を図る必要がある。

４　多言語対応について（安城市提出）

【要旨】

交通・防犯での多言語化対応の状況をご教示ください。

（１）外国人数／人口　例：6,414 人/187,192 人（平成２９年４月１日現在）

（２）多言語対応している交通・防犯事業の有無

例：メール配信（ポルトガル語・英語・中国語）

外国人学校での講座開催（ポルトガル語・英語）など

（３）多言語化の課題と今後の予定

例：市民向けメール配信の多言語化要望があるため、システム改修の際に導入を検討する。